『シャンティ』通巻318号　2023年11月1日発行（6・11月の1日発行）

SHANTI
シャンティ国際ボランティア会
2023.11
Vol.318
シャンティ

特　集

アフガニスタン「20年のあゆみ」

巻末言

道

気持ちを持ち続けるために

長野県　東昌寺　住職
横澤敬雄（よこさわけいゆう）

2004年2月、近隣の住職さんが代表を務める団体に便乗してラオス事務所や事業地でもある学校へ伺ったのがシャンティを知るきっかけとなりました。事務所でブリーフィングを受け、詳細な事業説明をしていただき、今後の課題や展望について東京事務所と協議しながら進展させていくとの内容でありました。ブリーフィングの後に小学校へ向かう道中、揺れる車内でその団体の方々は伺う先の子どもたちのために折り紙や風船を使ったお土産を一心不乱に制作しており、口々に「子どもたちの喜ぶ顔や自分たちが一緒に遊ぶためだよ」と言い、中には海外の新聞紙は薄いからと日本の新聞紙をきれいに正方形にカットして折り紙代わりに使うために梱包し持参した方もおられました。学校では事務所職員による『おおきなかぶ』の読み聞かせが行われており、子どもたちの歓声が響き、笑顔が溢れていました。そして移動図書館車に向かって走り、大切に大切に絵本を扱う小学生の姿は忘れることができない一コマでありました。その後、ご縁あってタイのバンサワイ村での現地僧侶と共に行わせていただいた托鉢、満月忌で村の方々が寺に集い、ほとんどが女性で後に聞けば男性の多くはバンコクなどに出稼ぎに行っているとのこと。集いし人々

カンボジアの小学校で子どもたちと

の祈りの姿、クロントイスラムでの体感、難民キャンプでの視感、カンボジアでは事業地の図書館や「アジア子ども文化祭」といった貴重な体験を通して心に残る感情、先輩僧侶から常々言われていた「現地に行ける機会があったら五感で得たものを必ず多くの人に伝えてください。感情的にならずにね！」、なかなかこれが難しいものであります。見聞きしたことをそのまま伝え、多くの方に興味を持っていただくことを試行錯誤していきたいと思います。

この気持ちを絶やさぬため、自身が海外事務所や事業地に赴き五感で得たものを持続させていきたいと思います。

ただ願わくは、かの地の子どもたちの識字率の向上や生活状況にかかわらず同じ教育を受けられるようになることを祈るばかりです。

4 緊急レポート
ウクライナ危機
— 活動報告 —

6 特 集
アフガニスタン20年

16 世界の絵本を読んでみよう
「一本の同じ樹」
ラオス 2017年

18 世界の麺 ネパールの麺「キーマ麺」

19 世界の現場からAIRMAIL
▸ミャンマー事務所 ▸ミャンマー(ビルマ)難民キャンプ
▸カンボジア事務所

26 開催報告 講演会
慈悲の心を未来につなぐ
二つの道が一つの道に

28 つくり手さんのぬくもり
タイ生産者団体
THAI TRIBAL CRAFTS FAIR TRADE

29 絵本に込められた想い
『やっぱりおおかみ』

30 ファインダーをのぞいて「我が愛しのアフガン」

31 お知らせ

32 道 気持ちを持ち続けるために
長野県 東昌寺 住職
横澤敬雄

古来より東西交易の重要な場所として、さまざまな人、モノ、文化などの中継地点だったアフガニスタン。歴史的に多くの民族が暮らし、現在は主に14の民族が暮らす多民族国家です。度重なる紛争で治安が悪化し、学校に行くことができない子どもは人口の約4割と言われています。

そんなアフガニスタンに、シャンティは2003年に事務所を開設し、図書館活動や学校建設事業、緊急人道支援事業に取り組んできました。これまでの道のりは決して平たんではありませんでした。アフガニスタンで取り組んできた20年間のあゆみをご紹介します。

今号の表紙
アフガニスタン、バーミヤンの子どもたち(2006年撮影)
©Yoshifumi Kawabata

アフガニスタンの風景(2017年撮影) ©安井浩美

ウクライナ危機
―― 活動報告 ――

ヘアドレッサー講座修了式

2022年2月に始まったウクライナ危機により、4300万人のウクライナ人のうち、ウクライナ国内および周辺国において、1700万人以上が人道支援を必要とする状況に陥っています。

このような状況に対応するために、シャンティでは、2022年8月以降、ウクライナ国内、周辺国であるモルドバおよびポーランドにおいて事業を実施してきました。活動内容は、緊急時の食料や生活必需品の配布や社会心理支援から始まり、影響を受ける子どもたちへの教育物資配布など、多岐にわたります。

現在もシャンティが事業を実施しているポーランドでは、政府に登録されているウクライナ人の数だけでも、150万人以上に上ります。ポーランド社会として、ウクライナ人が社会保障・公的サービスを受けられるようにしたり、民間で支援をしたりと、困難な状況にあるウクライナ人をできるだけ支援しようという流れはあるものの、首都ワルシャワの人口とほぼ同数のウクライナ人が1年半の短期間に入国している状況を踏まえると、継続した支援は容易ではありません。

2022年2月に始まったウクライナ危機からもうすぐ2年を迎えますが、ウクライナに平和が訪れる見通しは立っておらず、中長期化を見据えてどのように必要な支援を提供するか考えながら活動を継続しています。

緊急食料物資配布の準備

ウクライナ国内での活動を継続しています

❶緊急食料物資配布で物資を受け取る裨益者
❷ヘアドレッサー講座
❸裁縫講座

シャンティは2022年8月から、ウクライナおよびポーランドでの支援活動を実施しています。中でもウクライナ国内の避難民の方々に向けた就職やセラピーを目的とした講座の開催、食料や生活必需品の配布活動は2023年4月で事業を終了しましたが、現地のパートナー団体を通じて引き続きニーズが寄せられていたため、8月から再開しています。

紛争前から現地の大学などと成人教育を行ってきた団体と提携することで円滑に講座を開催することができ、また、同様の活動をウクライナ国内で行う他団体とのネットワークもあったことから、今回の事業から新たな団体ともパートナーシップを結び、中部のポルタヴァ州に加え南部のザポリージャ州に事業地を拡大して実施しています。

今後の取り組みについて

ポーランドでは、2023年5月にNGO登録が完了したことにより、シャンティ独自に事業を実施する体制に移行しています。『カミエナ・ゴーラ郡における社会統合促進事業（外務省・日本NGO連携無償資金協力）』は、既存の建物を改装することでウクライナからの避難民およびポーランドのホストコミュニティが一緒に利用できる社会統合センターを設立し、教育文化支援を実施することで、ウクライナ人がポーランド社会で生活しやすい環境を整備する予定です。

すでにポーランド社会に溶け込んでいる様子のウクライナ人もいる一方で、ポーランド語ができず就職が難しい人や、精神的なケアが必要な人など、見つけにくい個々のニーズの多様さを実感しています。

ウクライナ情勢の先行きが不透明な中、ポーランドに滞在するウクライナ人のニーズを的確に把握し、最も支援を必要とする人にしっかり届くような事業を実施していきます。

改修予定の建物

柳澤ちさと
地球市民事業課
課長補佐 ポーランド事務所代表

アフガニスタン

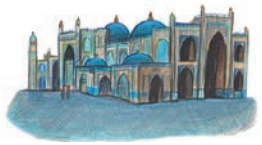
20年

シャンティがアフガニスタンに事務所を設立してから2023年で20年がたちました。パシュトゥン人が多数を占める一方で、多くの民族・言語・宗教が共存しているアフガニスタン。2021年の政変以降、彼らの生活はどのように変化したのでしょうか。これまでの活動を振り返るとともに、現地での活動のこれからをお伝えします。

2002年のカブール市内。当時はブルカをかぶった女性の姿も町で見かけました

〔 経 済 〕

2021年の一人あたりGDPは368.8米ドルで、コロナ禍の影響と2021年8月の政変以降、失業率や経済成長率が低迷しています。主要産業はサービス産業、農業、建設業、鉱業・採石業で、ドライフルーツや薬草、果物などをパキスタンやインドといった周辺諸国に輸出しています。人道支援を必要とする人口は1,840万人と非常に厳しい状況です。



〔 政 治 〕

2001年の米国同時多発テロ以降、米軍の侵攻によりタリバン政権は崩壊。その後カルザイ大統領が就任し、日本を含む国際社会が治安回復や復興に向け、多方面の支援を開始しました。

2021年に米軍は完全撤退、2021年8月15日にタリバンが実権を再掌握しました。タリバンとは神学生らで構成された集団で、イスラム体制構築を目指していますが、その実態は明らかではありません。

〔 社 会 〕

東西南北から人が往来した結果、多民族・多言語・多宗教国家となりました。パシュトゥン人（48%）をはじめ、タジク人（19%）、ハザラ人(11%)、ウズベク人(8%)、その他(14%)などで構成されています。ユニセフの発表では、アフガニスタンの人口の半数以上にあたる2,400万人（子ども1,300万人を含む）が人道危機に瀕しています。教育、公衆衛生、健康と多くの問題が山積しています。

〔 歴 史 〕

シルクロードとインドを結ぶ中間地点に位置し、「文明の十字路」として多くの人々で栄えた17世紀。1880年にはロシアとイギリスによる内政干渉の結果、イギリスの保護国に。

1919年に立憲君主制国家としてイスラム圏で最初に独立し、1978年にはクーデターによりアフガニスタン民主共和国を樹立。しかし1979年から10年間ソ連軍による侵攻を受け、撤退後も内戦状態が続きました。

＼ アフガニスタンってこんな国 ／

アフガニスタン・イスラム共和国は面積65万2,225km^{2}で日本の約1.7倍の面積です。陸地に囲まれ、国土の4分の1は山脈が連なる自然豊かな国です。公用語はパシュトー語とダリー語です。多くはイスラム教のスンニ派、少数派でシーア派、ヒンドゥー教、シク教、ユダヤ教を信仰しています。

参考文献：【書籍】
前田耕作・山根聡著（2021年）『アフガニスタン史』河出書房新社
中野憲志編（2014年）『終わりなき戦争に抗う　中東・イスラームの平和を考える10章』新評論

【ホームページ】
外務省 https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hyouka/kunibetu/gai/afghanistan/pdfs/jk05_01_03.pdf
国連児童基金（ユニセフ）　国際協力機構（JICA）

20年のあゆみ

日本から届いた絵本を手にする子どもたち　©安井浩美

写真クレジット：『しんせつなともだち』作：方軼羣、訳：君島久子、画：村山知義、福音館書店『くんちゃんとにじ』作・絵：ドロシー・マリノ、訳：間崎ルリ子、ペンギン社『ちびゴリラのちびちび』作：ルース・ボーンスタイン、訳：岩田 みみ、ほるぷ出版『ジオジオのかんむり』作：岸田衿子、絵：中谷千代子、福音館書店『ふしぎなたけのこ』作：松野正子、絵：瀬川康男、福音館書店

アフガニスタン事務所を設立して2023年で20周年を迎えました。アフガニスタンの歴史とともに、これまでのあゆみを振り返ります。

アフガニスタン事業のはじまり

2001年の米国同時多発テロを機に、世界の注目は一気にアフガニスタンに集中しました。すでに1979年のソ連軍侵攻後、大量の難民がパキスタンやイランなどに逃れていましたが、文明の十字路が「テロとの戦い」の最前線と化し、タリバンへの米英軍による攻撃が始まりました。

シャンティにとってこの地での活動は、設立以来最大の挑戦でもありました。それまでは東南アジアが主であり、ご支援者の理解も深かった一方、イスラム圏では経験に乏しく、役員間でも大激論になりました。結果、仏教思想を原点とする共生の価値を再認識し、実践に移すべく、ペシャワールから緊急人道支援に踏み切りました。翌年9月には役員調査団を派遣、2003年1月、ジャラバードに事務所を開設しました。

しかし20年後の今、タリバンが復活し、再び女性や子どもたちの教育機会が制限されるなど苦境を強いられています。どうか皆さま、これまで築いてきたアフガニスタンの人々との信頼を絶やさず、未来に向かって共に歩んでくださいますよう切にお願い申し上げます。

シャンティ国際ボランティア会　副会長　秦辰也

食料配布する秦氏

当時の食料配給所

アフガニスタン難民に対する食料配布やストリートチルドレン支援事業を実施

アフガニスタンNGO「ネジャットセンター」の協力のもと、ナンガハル県の3郡でトイレや井戸の整備、絵本などの出版のほか、食料支援を3回実施しました。

ソ連軍のアフガニスタン侵攻

東西冷戦禍、ソ連軍がアフガニスタンに侵攻したことを受け、アフガニスタンの人々は西側諸国と共に、ソ連軍に対抗しました。これにより、アフガニスタン側では約600万人の難民が発生し、隣国パキスタンやイランに逃れました。当時米国の支援に支えられたゲリラ団体の中には、米国同時多発テロの指導者やタリバンも含まれていました。

2003年1月

2001年 9月11日

2001年 12月〜

1996年 タリバン勢力の台頭

1979年

アフガニスタン事務所設立 教育支援事業に本格着手

シャンティはアフガニスタン国内ナンガハル県やパキスタンのペシャワール市内で事業を行ってきました。初等教育改善事業とストリートチルドレン支援事業を継続するために、国際NGOとしてアフガニスタン政府に正式登録し、小さな民家を借りてジャラバード市内に事務所を設立し、本格的な初等教育改善事業に着手しました。

建設途中のシャンティ アフガニスタン事務所

米国同時多発テロが発生

ニューヨークの世界貿易センタービルに、ハイジャックされた旅客機が相次いで衝突しました。その報復として米軍はアフガニスタンに侵攻。戦闘から逃れるため大勢がパキスタンやイランなどに脱出しました。

アフガニスタンの抱える教育問題

ゼロから本格的な教育復興を開始したアフガニスタンでは、生徒数が900万人を超え女子児童の就学率も4割以上といった成果が見られていました。しかし、2021年8月の政変後、中等教育以上の女子学生の教育の機会は絶たれ、女子教員の就労制限により、男子児童を含む多くの学校で授業が実施できない状況が続いています。2021年の世界銀行の報告では、識字率が37%と世界でも低い中で、このまま子どもたちの教育の機会が奪われてしまえば、読み書きができない人がさらに増えることになります。子どもたちが、未来への希望を失い、心的にも大きな傷を負うことが懸念されます。

男子生徒が集まる青空教室(2003年)

図書館事業開始

授業で絵本を読む先生

学校図書館研修を実施するトレーナーを育成するための研修

図書館

159館

これまで159館の図書館を建設、設置しました。

2003年よりナンガハル県で図書館事業を開始しました。アフガニスタンで学校図書館が普及していなかったため、学校に図書室を設置するだけではなく図書室の使い方や本の活用、読み聞かせなどの研修も行っています。活動を始めた当初は「絵本は偶像崇拝禁止の教えに反するのでは」と疑問を抱く教員も多くいましたが、今は本の価値を理解し、読み聞かせや図書室の装飾なども自分たちで担うようになりました。

これまで子どもの本が一切なかった公共図書館に児童図書、書棚やテーブルなどを設置し、子どもたちが図書に親しみやすい空間の整備なども実施しました。

2003年

2004年

2012年
日本人職員渡航不可

2021年
政変によりタリバン暫定政権樹立

2023年

学校建設事業開始

最初に建設した小学校（新築当初）

学校建設数

43校

2022年までに43校建設しました。

アフガニスタンでの学校建設第1号は2003年に建設されたバチコット郡にある「タキヤガレイ小学校」です。学校建設前は、男子校舎は藁で作られ、女子校舎はユニセフのテントを使用し、井戸やトイレなどの施設もない劣悪な環境でした。アフガニスタンでの学校建設は建設業者に委託せず、担当スタッフを中心に建設チームを編成し、地域のコミュニティと連携しながら、適正価格で良質な学校を建設してきました。

また、第1号建設以降も多くの学校建設を実施してきましたが、学校を建設するだけではなく、建設後も図書館活動を支援するなど、住民の理解の上で活動を進めることができました。

読書推進事業開始

2003-2004年にアフガニスタンで出版された絵本

出版した数

合計241冊

絵本：ダリー語86タイトル
パシュトー語107タイトル
紙芝居：ダリー語22タイトル
パシュトー語26タイトル

2004年から始めた母親参観

子ども図書館利用者数

60万人

これまで60万人以上の子どもたちが子ども図書館を訪れています。

絵本・紙芝居出版

アフガニスタンで古くから伝わる民話の多くは、長老や村人から口承で伝えられています。絵本に関する専門家が参加する出版委員会を組織し、文章が子ども向けになっているか、文法、アフガニスタンの文化や倫理面で問題ないかなどを確認しています。

子ども図書館

ジャララバード市から運営を開始しました。図書館活動や文化活動を通じて、子どもたちにのびのびと表現する機会を与えることが目的です。母親同士の交流の場にもなっています。2021年8月から10月まで閉館していましたが、現在は活動を再開しています。

子どもたちからのメッセージ

モカさん（仮名）

年齢・学年：
11歳、7年生（中学1年生）

好きな食べ物：
マカロニ、豆、お米、ザクロ、マンゴー

学校が閉鎖された時、教育のないこれからの生活がとても無意味に感じてしまったことを覚えています。私は子ども図書館でたくさんのことを学びました。ここでは、私のように経済的に貧しくても、英語や算数などを無料で学べます。私はどんな状況下でもこの図書館を支援してくれる日本の人々に感謝したく、またさまざまなことを教えてくれる先生たちにも心から感謝しています。

モカさんが描いた村の生活

アブさん（仮名）

年齢・学年：
10歳、小学5年生

好きな食べ物：
お米、肉、マンゴー

父は警察官でしたが、現政権下で給料を支払ってもらえず、今は市場でジャガイモや玉ねぎを売って生計を立てています。私は学校で授業を受けるお金はありませんが、子ども図書館で勉強ができます。将来は画家になり、アフガニスタンの人々に幸せを運ぶ美しい絵を描きたいです。貧しいアフガニスタンの子どもたちのためにこの図書館をつくってくれた日本の人々に感謝しています。

本をたくさん読むことと教育の機会こそが
明るい未来をつくってくれるという想いを込めて

ハナさん（仮名）

年齢・学年：
13歳、7年生（中学1年生）

好きな食べ物：
お米、バナナ

学校が閉鎖され、将来の希望を失っていた矢先、私のいとこが子ども図書館のことを教えてくれました。それ以来、毎日図書館に来ています。私は学校や図書館に行くことができない女の子たちのことを思うと悲しいです。なぜこんなことがアフガニスタンで起きてしまうのかわかりません。それでも、日本の皆さんのような友達がいて助けてくれるので、私はこれからも学ぶことを止めません。

鳥のように自由になりたい、
勉強もしたいし学校にも行きたい

アイさん（仮名）

年齢・学年：
13歳、7年生（中学1年生）

私は2018年から子ども図書館に通い、図書館にあるすべての本を読みました。私たちの学校が閉鎖されて、ひどく悲しみましたが、私は自分の学習をこの図書館で続けることに決めました。誰も私が図書館に通うことを止めたりしませんでした。

今は、図書館に教科書を持って行き、先生と学習しています。先生たちは勉強できる場所を提供してくれて、私の未来をつくってくれる存在です。

絵を描くことが大好きなアイさん。
アイさんが生活する村の風景

子ども図書館に通う子どもたち

移動図書館活動の読み聞かせ

まとめ

図書館に一縷（いちる）の望みを託す

20年前、木製の図書箱に何とか集めた絵本を数冊入れて青空教室で再開した学校を回り、読み聞かせをしたのがアフガニスタンでの図書館活動の始まりでした。いつでも絵本と触れられる場所をつくりたいと、治安が不安定な中、子ども図書館を開設しました。学校に行けない子、避難民の子、障害を持った子、親がいない子…さまざまな子どもが来館するようになり、子どもたちの要望から、縫製教室や補習教室など多岐にわたる活動が始まりました。

家庭の事情で不就学の子どもにとって、図書館は読み書きを学び、友達をつくり、自分の将来に夢を見ることができる唯一の場所です。家計を支えるために日々働く子どもも、その険しい顔を緩ませ、屈託のない笑顔になる時間がそこにはありました。

私たちも少しずつ復興を実感できた矢先の2021年8月、政変が起こりました。首都カブール陥落の日は、オンラインで現地職員と今後の話をしていました。武装勢力によるカブール入域の緊急連絡が入り、パニックになる職員もいました。溢れる涙をこらえ、「また会いましょう」と画面越しに笑顔を見せた職員に、かける言葉がありませんでした。初めて、足元から築きあげてきたものが崩れ落ちるような感覚を経験しました。

あれから約2年、子ども図書館は紆余曲折（うよきょくせつ）ありながらも開館し続けています。来館する子どもは、就学を禁止された女児を中心に増えています。さまざまな不安がある中、子どもたちにとって唯一の希望を見いだせる場である図書館の存続に職員はもちろん、地域住民も奔走しています。

今、教育の機会を失った女児たちにとっては、図書館が学びの場になります。図書館が持つ可能性を信じ、アフガニスタンが直面する危機を乗り越えていきます。どうかこれからもよろしくお願いいたします。

事務局長 兼
アフガニスタン事務所
所長
山本 英里

職員が今思うこと

3人の娘を持つ父親として、現状でもいかにして女の子たちに教育の機会を届けられるか

私は3人の娘を持つ父親です。娘たちは今でも学校に行くことはできません。カブールなどの大きな都市では女の子への授業も男性の先生が行っており、学校に先生がいない状況もありました。アフガニスタンの教育状況はどんどん悪化し、男女共に影響が出てきています。

現在は、どうしたらアフガニスタンの女の子たちに教育の機会を届けられるかを優先的に考えています。図書館活動の拡大や図書館などで本を読んだりすることで、少しでも女の子たちの教育継続につながればと思います。

ムサフェルさん（仮名）
プロジェクトマネージャー。選挙事務所で勤務後、日系の支援組織で勤務。2020年よりシャンティに入職。

シャンティと共に20年、これからもコミュニティと協力しながら

私が入職したころ、世界中から注目されていたアフガニスタンはみんなが未来に希望を持っていました。コミュニティの要望で建設した学校の開校式で見た、子どもたちの喜びに満ちた表情が忘れられません。

この20年を振り返ると、コミュニティとの親密な関係構築が重要だと感じます。政変後、女性職員は働くことができませんでしたが、直接コミュニティに働きかけた結果、今は働けるようになりました。

アフガニスタンの誰もが教育を受けられるようになることを願っています。

ジャドさん（仮名）
アフガニスタン事務所副所長。アフガニスタンの医療系の大学在学中にパート職員として勤務。その後2008年に正規職員としてシャンティに入職。2021年より現職。

教育を受けた世代がアフガニスタンの希望の光

事務所開設20周年を迎えられてうれしく思います。1年目は学校も教材もなにもかもない状態からのスタートでしたが、私たちが行ってきた教育事業は、アフガニスタンの人々、特に女性や子どもたちを変えました。今の若者世代は教育を受けた世代であり、それはアフガニスタンの希望です。

現在の厳しい状況は長く続かないと思います。教育こそが争いを終結させる手段です。これからも女性の権利や教育の問題について、国際社会に働きかけていきたいと思います。

マララさん（仮名）
プログラムアシスタント。財務省、現地のコンサルテーション会社での勤務を経て、2013年よりシャンティに入職。

ラオス　2017年
シャンティ出版絵本

一本の同じ樹

1

ある森の中に、いろいろなちょうちょが卵を産む場所がありました。ある日、ひとつの卵が樹から転がり落ち、違うちょうちょの卵が産み付けられた樹に落ちました。

2

月日が過ぎ、卵は次々とかえり、青虫になりました。

青虫の中でも一番美しい青虫は「ハンサム青虫」と呼ばれ、慕われていました。一方、一匹だけほかの青虫と模様も大きさも違う青虫は「太っちょ青虫」と呼ばれるようになりました。

3

太っちょ青虫は何をしてもほかの青虫に相手にしてもらえませんでした。ハンサム青虫は性格が悪く、太っちょ青虫の悪口ばかりを言っていました。太っちょは自分がほかの青虫と同じように生まれなかったことを恨みました。

4

気付けば青虫たちはさなぎになり、きれいなちょうちょになりました。甘い蜜に夢中で、一羽のお腹を空かせた大きな鳥が自分たちを狙ってじっと見ていることにはまったく気付きません。

5

まもなく、その大きな鳥がさっと翼を広げて、ハンサムちょうちょたちを食べようと飛んできました。慌てて逃げたために、ハンサムちょうちょは蜘蛛の巣に引っかかってしまいました。大声で叫びましたが、誰も助けに来ません。

その時、一匹の大きなちょうちょがさっと飛んできました。その羽は、ちょうど怒ったトラの顔のような模様で、大きな鳥は驚いて逃げていきました。

6

ハンサムちょうちょは、助けてくれたちょうちょに名前を聞きました。

「覚えてない？僕は太っちょだよ」

「太っちょ、君が助けてくれるなんて思ってもみなかった」「僕たちは体つきや顔は全く違うけど、同じ樹で育った兄弟じゃないか。助けないわけにはいかないよ」。

それからハンサムちょうちょたちは自分の態度を見直し、太っちょは友達の数が増えていきました。

世界の麺

シャンティの活動地にはユニークな麺料理がたくさんあります。お年寄りから子どもたちまで年齢や世代を問わず愛される麺料理を、シャンティの職員がご紹介します。

ネパールの麺

［キーマ麺］

किमा चाउमिन

ネパール事務所
イアム・ナワルさん
ネパール事務所でプロジェクト・コーディネーターとして働いています。

世代を問わず親しまれているピリ辛スパイシーな冬の味覚

この麺は精製された小麦粉からできており、野菜や肉をのせて食べたり、最初から麺と具材を一緒に炒めて食べることもあります。唐辛子、ペッパー、クミンシード、ニンニクなど、さまざまなスパイスを使った料理で、寒い季節に好まれます。

一般的な作り方はまず、麺を茹でて冷水で洗います。タマネギとニンニク、香辛料を炒めたところに、茹でた野菜（葉野菜、キャベツ、ニンジン）、炒めたキーマ（ひき肉）を加え、麺の上にのせて完成です。お好みでスープを加えてもおいしく食べることができます。

この料理はどの町でも親しまれており、カトマンズではパタンやブッダ、タメル地区で食べることができます。パタンはラリトプル県にある都市で、非常に歴史的な寺院や集落があります。お店や屋台でも食べられます。お店によりますが200〜400NPR（345円〜650円）です。

いつも家族連れでにぎわう店内

世界の現場から AIRMAIL

To 日本の皆さん　From 活動の現場

このページでは、アジアの各国で活動するシャンティの様子や職員を紹介します。

From Myanmar

ミャンマー事務所

軍事クーデターの影響が教育現場でも続いている中、復学した子どもが安心して学べる校舎の建設と学習を補えるよう取り組んでいるミャンマー事務所の取り組みを紹介します。

From BRC

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ

ミャンマー本国での軍事クーデターの影響を受け、タイ国境の難民キャンプで暮らす人の精神的な不安が続いています。安心できるコミュニティ図書館は難民の人たちの居場所になっています。

From Cambodia

カンボジア事務所

2022年から全面的に学校が再開しましたが、コロナ禍前に比べ学習達成度、留年率、退学率が悪化しています。失われた学習機会を取り戻す取り組みが必要となっています。

From Myanmar

ミャンマー事務所

ミャンマー事務所は、非常に厳しい状況と政治的危機の下で、ミャンマーの子どもたちの学びを途切れさせないように、あらゆる学習の機会を提供し続けています。

僧院学校でのユニークな取り組み

2022年に行った僧院学校での取り組みは非常にユニークなものです。僧院学校には貧しい家庭の子どもたちが多く在籍し、住職や校長が基本的な文房具を支援していますが、財政難によりその支援にも限りがあるため、児童・生徒や教師へ教材や教具を提供しました。教材の配布はユニークな活動だと思わない方もいらっしゃるかもしれませんが、ミャンマーでは基本的な物品を提供するだけでも貴重であり、特別なのです。

クーデターで変化したプロジェクトの進め方

クーデター前と比較すると、治安や安全面、プロジェクトの内容、カウンターパートとの調整など、さまざまな面でプロジェクトの進め方を検討する必要に迫られました。2021年以降、プロジェクトの特性や資金調達の問題から、1年単位で事業を計画してきました。2020年に計画した3年間のプロジェクトは見直さざるを得ない状況です。

ミャンマーの状況が今よりも改善され、現在の中央レベルの人々が教育の重要性を理解し、どのような状況であってもNGOからの支援を歓迎するようになることを願っています。

僧院学校の子どもたち

Hot Topics

1 出国する若者たち

現在、多くの若者がさまざまな理由で国外に流出しています。裕福な家庭に生まれた人は勉強のために、またある人は働くために出国しています。ヤンゴンのパスポートオフィスや日本、韓国、タイ、マレーシア、シンガポール大使館の前には長蛇の列ができています。その背景には、国内での就労機会の減少、商品価格の高騰、政治危機などが考えられます。

2 新カリキュラムに重要な学校図書館

シャンティが支援する学校図書館は、新カリキュラムの授業スタイルをサポートするためにも非常に重要です。新しいカリキュラムは、子どもたちが自ら考える力を育むことに重点を置いています。これまで子どもたちは先生の話を聞いているだけでしたが、新カリキュラムでは学校図書館で調べ物をしたりすることが期待されています。

3 僧院学校の子どもたちを対象とした支援

インフレの影響で文房具の値段がどんどん上がっています。保護者は十分な文房具を購入する余裕がなく、ほとんどの場合、児童同士で文房具を貸し借りするため、授業が遅れてしまうこともありました。支援で配布した文房具や学習キットを受け取った子どもたちは、安心して学校生活を送ることができるととても喜んでいました。

1

2

3

ミャンマー事務所
シニアコーディネーター
テッ・テッ・ハニー

PROFILE

大学時代からNGOで働くことが夢で、ヤンゴンの民間企業で約6年実務経験を積んだ後、2016年にシャンティに入職。シャンティのピー事務所がある場所は生まれ故郷であり、故郷の子どもたちの成長のためにシャンティで働くことを決意。好きな言葉は「自分の手で夢をつくる」。

From BRC

ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ

コロナ禍をへて、難民キャンプ内での活動を再開できるようになりました。スタッフや関係者とのコミュニケーションも密にとることができるようになり、連携が強まっています。

子どもたちへの読み聞かせ

コロナ禍を乗り越え、ますます深まる連携

コロナが落ち着いた後、キャンプスタッフ（図書館員、TYV、図書館委員会の一部）と頻繁に会えるようになりました。キャンプ内での連携は非常によく、昨年の選挙をへて、教育、管理、セクション・リーダーなどさまざまな役割に図書委員が参加できるようになりました。実際に現場で会うことは、とても重要で効果的なアプローチだと強く感じており、連携が強くなっています。

トレーニングで人を育てる

今年はキャンプスタッフ、特にユースタッフのために、アクティビティを企画しました。キャンプスタッフを対象とした現場でのトレーニングは長い間行っておらず、コロナ後、練習できていないスタッフがいたり、活動を見直す機会がなかったり、あるいは新人のスタッフもいたため、全7カ所のキャンプでトレーニングを実施しました。

この研修を通じて、子どもから大人まですべての人々に図書館活動を提供するために、キャンプスタッフが効果的に実践できるようになることを願っています。

Hot Topics

1 デング熱とマラリア

この時期キャンプではデング熱とマラリアの流行が話題になります。4月以降多くのデング熱患者が報告されており、予防や治療を効果的に行うため、公衆・衛生・政府、国際機関の協力により、蚊帳が寄贈されています。
それとは別に、蚊帳の下で寝ること、未使用の貯水容器・植木鉢・溝・家の中の立ち水など、水たまりをつくらないことなど、デング熱予防に関する注意事項をスピーカーから大音量でアナウンスしています。

2 キャンプでの教育

キャンプでの教育において最大の問題のひとつは、学校に入学する児童・生徒数の増加により資源が不足していることです。そのため、教科書や教室、教師など、キャンプで利用できる資源に負担がかかっています。もうひとつはスペースの不足です。過密状態の学校もあり、児童・生徒は教室を複数の学年で共有しなければならないこともあります。このような課題はありつつも、教育セクターは一丸となって児童・生徒の教育の質を維持し続けています。

3 難民検証演習

ミャンマー情勢により、母国への帰還という難民キャンプで暮らす人々の解決策のひとつが失われました。そのため、キャンプ住民は将来へ希望を見いだすことが難しくなりました。もうひとつの解決策として考えられている第三国定住は、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）とタイ王国政府との合意により開始され、計画が進んでいます。これはキャンプに住む人々にとって最もホットなトピックで、私もこのニュースに喜びを感じています。

図書館アシスタントコーディネーター
イン

PROFILE

Aid Workerをへて、2005年にシャンティに入職。毎週日曜日には、他の村に古着を配るボランティアにも参加。「自分らしく、ベストを尽くせ。時は人を待たず、今日が最高だ」をモットーに職務にまい進している。

From Cambodia
カンボジア

長年シャンティが活動するカンボジアでは、近年子どもの成長における「遊び」の重要性の認識が広がってきています。カンボジア事務所で2015年から開始した幼児教育事業の取り組みとは。

子どもの成長に重要な「遊び」

幼児期の子どもたちは、食事や睡眠以外のほとんどの時間を何らかの遊びに費やしています。幼稚園において遊びを生み出す環境を提供することは、子どもの発達や学びに大きな影響を与えることが分かっています。現在カンボジアでは「遊び」の重要性が認識され、その概念や実施するための環境づくりが幼児教育システムに取り入れられ始めています。

改善を感じるとうれしい

カンボジア事務所では2015年から幼児教育への取り組みを開始し、現在は幼児教育カリキュラムに基づく「遊びや環境を通した学び」を実践するための基盤構築事業を実施しています。この事業では、遊びを通した学びを生み出すための環境構成や、遊びを促進する手法として、絵本の読み聞かせやおもちゃなどの教材を効果的に活用する方法を紹介しています。

教え込むことが中心だった多くの幼稚園において、遊びを取り入れた学びの実践を先生に働きかける時に難しさを感じることがありますが、研修の後に教室の環境や活動が改善されているのを見ると、とてもうれしく思います。

遊びを通して学ぶ子どもたち

Hot Topics

1 研修講師の能力強化のためのトレーナー研修の実施

対象幼稚園の先生に対する研修に加え、事業終了後もほかの幼稚園に対して研修や指導を行えるよう、バッタンバン州の教育行政や中央幼稚園の先生を対象に講師養成研修を行っています。環境構成、読み聞かせ、教材の3つの側面から「遊びや環境を通した学び」への理解を深める研修を実施しました。

2 訪日研修の開催

教育省幼児教育局、幼稚部教員養成校、州教育局の幼児教育担当者、幼稚園教員の中から9名が、幼児教育事業に専門家として協力してくださっている社会福祉法人天竜厚生会で研修を行いました。参加者たちは、日本では遊びが子どもたちの学びになっていること、クラスでの活動は遊びを中心に行われ、子どもたちはそれを楽しむことで、経験を積み重ねていることを理解していました。

3 家庭での読書推進への取り組み

コロナ禍で学校が長期間閉鎖したのを受け、家庭での読み聞かせの促進を目的として、読書推進キットを対象幼稚園に配布しました。カンボジア事務所出版の絵本数冊、積み木、家庭での読書推進リーフレットでキットは構成され、対象幼稚園の先生が保護者にキットの使い方、特に子どもと一緒に絵本を楽しむ方法を説明してから、配布をしました。

カンボジア事務所
幼児教育事業プロジェクトスタッフ
ヤ・ファリナ

PROFILE

学生のころから子どもの助けになる仕事をしたいと考え、教育や開発に関わる企業で勤務した後、2020年にシャンティに入職。ラジオのMCとしても働いていたことがある。モットーは「幸せと自信とは人が身に付けることのできる最も美しいもの」。

講演会

「慈悲の心を未来につなぐ 二つの道が一つの道に」

例年3月に開催している定時社員総会にあわせ、尼僧法団の笹川理事長をお迎えして講演会を開催しました。第1部は尼僧法団のこれまでを笹川師にお話しいただき、第2部は「難民支援、文化支援とウェルビーイング」をテーマに、笹川師とシャンティ専門アドバイザーの大菅俊幸さんによる対談を行いました。今回は第2部の様子をお届けします。（内容は2023年3月時点）

大菅俊幸さん

シャンティ専門アドバイザー、曹洞宗総合研究センター講師。1950年生まれ、宮城県石巻市出身。駒澤大学大学院修士課程仏教学専攻修了。高校教員などを経てシャンティの創立者有馬実成師に共鳴し、NGOの世界へ。

登壇者プロフィール

笹川悦導師

全日本仏教尼僧法団 理事長、曹洞宗観音庵住職。1975年駒澤大学大学院修士課程仏教学専攻修了。全国曹洞宗青年会理事、曹洞宗尼僧団書記、編集委員、評議員、理事などを務める。

2022年9月1日、国内で伝統文化の継承や戦後の戦争被災児や子どものための支援活動を行ってきた全日本仏教尼僧法団とシャンティは合併しました。シャンティが東京事務所としている慈母会館は、尼僧法団から長年お借りしており、その出会いは30年ほど前にさかのぼります。どのようなつながりで道を同じくするに至ったのでしょうか。

慈母会館を通じた出会いから道を共にするまで

笹川：尼僧法団は第二次世界大戦後、戦災孤児、引き上げ孤児、戦争未亡人・青少年の育成に宗派を乗り越えて団結し、仏教精神である慈悲の救済、人材育成を目指して結成されました。多くの方々が自分たちもとても苦しい時、汗と願いのこもった浄財を喜捨されて、尼僧法団があり、慈母会館があります。

大菅：私がシャンティに入職した1995年から2年ほどしたころ、当時巣鴨にあった事務所が手狭になってきたため移転することになりました。さまざまな物件を探しているうちに、当時の事務局長である有馬実成さんが「尼僧法団から慈母会館のお話をいただいた」と言ってとても喜んでいたことを思い起こします。1997年に転居し、慈母会館は本当に広々として別天地だと感じました。

笹川：私どもが合併を考え出しましたのは4年ほど前です。残念ながら尼僧法団の先々を見通しますと、高齢化、人員不足、事業停滞と公益法人としての行き詰まりが見えてきたことから、合併の選択肢が出たわけです。

尼僧法団から申し出たことですが、合併を決めますのに議論に議論を重ね、大変悩み、眠れない日も度々ございました。帰属先候補はいろいろありましたが、シャンティの取り組みに向かうお心とお働きは、仏教で申しますとまさしくお観音さま、お地蔵さま、菩薩さまの御姿でございます。尼僧法団の理念であります、慈悲の救済と一致するというところにすべてを託させていただきました。

難民支援、文化支援とウェルビーイング

大菅：難民支援として、行き場を失ったベトナムの方々を慈母会館で受け入れておられた時期があるそうですね。

笹川：1979年あたりからですね。ベトナムとは生活や文化が全然違いますので、昔の古い建物の慈母会館へ来ると、履物を脱がずに上がっていく姿を見て驚きました。

それから、ベトナムの人たちは、何かにつけて慈母会館内にある本尊さまに手をあわせていました。心のよりどころになっていたのだと思います。

大菅：そのように受け入れてくださって、ベトナムの皆さんは本当に助かったでしょうね。とても貴重な取り組みだったと思います。

シャンティは2020年から外国人支援ということで、日本に住んでいる在留外国人の方々を対象に支援活動を始めました。東京・豊島区の社会福祉協議会や法律事務所の方々と連携して、フードパントリーと相談会を実施しており、豊島区内の曹洞宗のお寺をお借りして開催したこともあります。

先日、とあるテレビ番組でも特集されていましたが、在留外国人の方々の心のケアが非常に手薄で、対応できる精神科医院が都内でも二軒しかないそうです。今後は心のケアの面でも何らかの手立てが必要だと思っており、お寺や僧侶の方々にもっと関わっていただくと良いのではないかと思います。

笹川：本当ですね。共にやっていくことができると良いですね。

大菅：最近よくウェルビーイング（Well-being）ということが言われます。身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念で、より良い人生を送るための新しい価値観として注目を集めています。

1948年にはWHOの憲章前文にすでに登場しているようですが、ではなぜ最近になってもてはやされるようになってきたのかと言えば、私が思うには、経済的豊かさは実現できたのに、幸せというものを実感できない。それどころか、生きづらい世の中になっていることに危機感を感じて、これまでの経済一辺倒の価値観やライフスタイルを転換しなければならない、という意識が高まってきたからではないかと、そう思うのです。

ほかならぬシャンティの活動も、体の健康・栄養だけではなく、心の健康・栄養も必要と考え「共に生き、共に学ぶ」社会を目指してきたわけで、まさしく、ウェルビーイングの探究であったと言っていいのではないかと思うのです。尼僧法団が仏教精神をよりどころとして文化活動に取り組んでこられたのも、ウェルビーイングの探究であった、と言えるのではないかと思います。

そういう意味で、シャンティや尼僧法団がこれまで取り組んできたものが、ますます時代から必要とされるようになってきた、ということかもしれません。これまで取り組んできた私たちの難民支援、文化支援の体験の蓄積を、時代がますます求めはじめているのではないかということです。

尼僧法団と合併してパワーアップしたことで、さらにこの時代が求めているものを敏感にキャッチして、シャンティの活動も国内にいる外国人の方々に向けてもできることはまだまだあると思います。

笹川：私たちもできる限り協力したいと思います。どうぞ慈母会館をシャンティの皆さまのよりどころとして、これからもご活躍ください。

つくり手さんのぬくもり

CRAFT AID

クラフトエイドはアジア各国で民族独自の伝統や技術を生かした商品づくりに取り組んできました。このページでは民族の手仕事とスタッフおすすめの商品を紹介します。

［つくり手さんの紹介］

タイ生産者団体
THAI TRIBAL CRAFTS FAIR TRADE

タイ北部のチェンマイで、ラフ族、カレン族、リス族、アカ族、モン族の人びとを支えるWFTO認証を持つ生産者団体です。ミャンマーから避難してきたラフ族の支援から始まり、今年で50周年を迎えました。5人の職員と刺繍や織りを行うつくり手グループが所属しています。民族ごとの特徴と技術を生かした製品づくりを精力的に行うことで、山岳地域に暮らす少数民族の人々の生活を支えています。

また、伝統技術のワークショップや体験教室、少数民族の村を訪れるスタディツアーにも力を入れており、若い世代の織り手を育てるために大学と協働し、織物パターンのデジタル化などの新しい試みに挑戦しながら伝統技術を守るために奮闘しています。

スタッフのおすすめ商品

アカ族手刺繍トートバッグ

アカ族のつくり手が一つひとつ丁寧に手刺繍をほどこしたトートバッグ。アップリケや刺繍を規則正しく配置し、幾何学模様を横一列に並べたカラフルで独特な手仕事が楽しめます。幅広の持ち手とファスナーが付いています。

新商品やお買い得情報も更新中。クラフトエイド・オンラインストアはこちらから。

子どもたちの年齢や文化的背景に応じて必要な絵本は異なり、児童書の書店員、図書館員、出版社から、おすすめを教えてもらっています。それぞれの絵本に込められた想いを紹介します。

絵本に込められた想い

絵本を届ける運動

心の隙間に「おおかみ」を

ひとりぼっちのおおかみが、仲間をもとめて街をさまよいます。

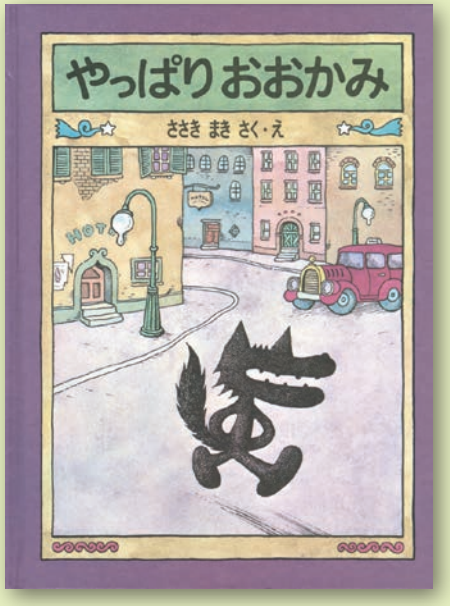
「どこかにだれかいないかな」

うさぎ、やぎ、ぶた……。みんなにぎやかで楽しそうにしているのに、おおかみが来ると逃げ出してしまいます。

「おれににたこは いないかな」

ちょうど50年前、前衛漫画家であった佐々木マキさんの、絵本作家デビュー作として描かれたこの絵本は、孤独なおおかみが、最後には孤独な存在である自分を受け入れるというこれまでにない斬新なテーマで、不思議な余韻を感じさせるものでした。

幼いころに読んでも、よく分からないかもしれません。でも成長して、他者との違いや孤独感を感じる瞬間が訪れたときに、ふっと心の隙間からおおかみが顔を出して〝自分だけが違っていても、仕方ないよね、だってそれが自分なんだもの〟とささやいてくれることでしょう。おきまりのせりふ「け」と唱えながら。



『やっぱりおおかみ』

作・絵：ささき まき

出版社：福音館書店

出版社紹介：

町田春生さん

株式会社福音館書店

1952年創業。1956年に月刊物語絵本『こどものとも』を創刊し、以来『ぐりとぐら』『魔女の宅急便』といった創作絵本・童話や、『てぶくろ』や『エルマーのぼうけん』など海外の優れた児童書をたくさんの子どもたちに届けています。

言語・テーマ

仲間をもとめてさまようおおかみの姿や言葉を通して、「自分らしくあること、自分自身を理解して受け入れること」について考えるきっかけになる一冊です。活動地からのリクエストを受けて、2024年度はラオスへ届けます。

参加のお申し込みはこちらから

シャンティからのお知らせ

シャンティの日（12月10日）イベントのお知らせ

アフガニスタンにおける20年間の取り組みや、アフガニスタンの現状をテーマとしたイベントを開催します。詳細は随時シャンティ公式ウェブサイトにてお知らせいたします。

日　　時：2023年12月10日（日）14：00～17：00
場　　所：聖心女子大学4号館　ブリット記念ホール
参 加 費：無料
開催形式：オンラインでもご参加いただけます

2023年度　定時社員総会・イベントのお知らせ

2023年度総会を下記のとおり開催いたします。総会で議決権のある社員会員の皆さまには、3月初旬に資料をお送りいたします。総会後にイベントを予定しています。

日　時：2024年3月27日（水）

遺贈寄付を受け付けています

遺贈とは、ご自身が遺される財産や、相続された財産の一部を「未来を担う子どもたち」のために託していただくご寄付です。

「遺言」によってご自身が遺される場合だけでなく、ご遺族が故人の遺志を受けて相続財産を役立てたいとお申し出いただくご寄付や、お香典・お花料からのご寄付など、「遺贈」にはさまざまなかたちがございます。

シャンティでは、遺贈・相続寄付に関するパンフレットをご希望の方にお送りしております。個別のご相談もお受けしておりますので、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ：広報・リレーションズ課
電　　話：03-6457-4585

人事のお知らせ

●退職

五嶋 佑輝	地球市民事業課 海外緊急人道支援担当	5月31日付
梶ヶ山 薫	広報・リレーションズ課 広報担当	6月30日付
長内 淑江	事業サポート課　海外事業担当	7月31日付
竹本 恭子	総務人事課　総務担当	7月31日付
古賀 智子	総務人事課	8月31日付

●入職

北田 さやか	総務人事課　課長補佐	7月1日付

●異動

鈴木 晶子
コーポレート・コミュニケーションシニアマネージャー 兼 地球市民事業課 課長代行 ➡
コーポレート・コミュニケーションシニアマネージャー 兼 地球市民事業課 課長　7月1日付

市川 斉
地球市民事業課 課長 ➡ 地球市民事業課 課長補佐　7月1日付

栁澤 ちさと
地球市民事業課チーフ・海外緊急人道支援担当 ➡
地球市民事業課 課長補佐 兼 ポーランド事務所代表　7月1日付

●役職変更

玉利 清隆
運営推進シニアマネージャー 兼 経理課課長 ➡
運営推進シニアマネージャー 兼 経理課課長 兼総務人事課 課長　7月1日付

シャンティ 2023年11月号(通巻318号)　2023年11月1日発行

発 行 人：若林恭英
発 行 所：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
〒160-0015東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階
TEL 03-5360-1233　FAX 03-5360-1220
WEB：www.sva.or.jp　E-Mail：info@sva.or.jp
編 集 人：鈴木晶子
編集・制作：株式会社文化工房
イラスト：きよはらえみこ
印　　刷：株式会社サンエー印刷

FSC ミックス 紙 | 責任ある森林管理を支えています FSC® C004858
リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
VOC FREE
当会へのご寄付は、所得税、住民税、および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。
©Shanti Volunteer Association.
「シャンティ」は、FSC®森林認証紙にノンVOCインキ（石油系溶剤0%）で印刷しています。

Shanti's Photo Log
ファインダーをのぞいて

川畑 嘉文（フォトジャーナリスト）
Yoshifumi KAWABATA

ニューヨークの雑誌社勤務時代に9.11を経験し、記者職を捨て写真の道に進むことを決意。2002年、会社を退職しタリバン政権崩壊後のアフガニスタンを訪れ取材を行った。2005年フリーランスのフォトジャーナリストとなり、世界中の難民キャンプや貧困地域、自然災害の被災地で取材を行い、雑誌や新聞などに写真と原稿を寄稿している。

パキスタンからアフガニスタンまでの道中、遊牧する民を見つけました

「我が愛しのアフガン」

ニューヨークで米国同時多発テロを経験した私は翌年仕事を辞めアフガニスタンを訪れました。米軍の侵攻によってタリバン政権が崩壊し、人々は自由を謳歌していました。2002年のことです。

カブールの街は長く続いた紛争でボロボロ。今にも崩れ落ちそうな建物に人が暮らしているのに驚きました。それでも、暗い雰囲気はありません。街頭テレビに真剣な眼差しを向ける子どもたちや、路上でナンを売る女性。これまで禁止されていたことができるようになった歴史的瞬間です。

米軍の撤退でタリバンが復権し、国民はまた不自由な生活を強いられています。私がフォトジャーナリストとしての第一歩を踏み出したアフガニスタン。必ず再訪し、苦しい現状を取材しなければなりません。

上：全身を覆うブルカを着てナンを売る女性
下：テレビに夢中になる少年たち